

U.S. Indicators

米国 良好な雇用所得環境や低い実質金利等で堅調持続(18年5月小売売上高)

公表日：2018年6月14日(木)

～コア小売の拡大モメンタムはプラス幅拡大～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車	自動車	家具	家電	衣料品	ガソリン			
17/05	▲0.2	(+4.0)	▲0.4	+0.3	+0.7	+1.2	▲1.8	▲0.5	▲0.2	▲3.2
17/06	+0.4	(+3.5)	+0.3	+0.7	+0.8	+0.4	▲0.4	+0.2	+1.2	▲1.1
17/07	+0.2	(+3.7)	+0.3	+0.1	▲0.0	▲0.3	▲1.1	+0.3	+0.1	▲1.1
17/08	+0.0	(+3.7)	+0.6	▲1.4	▲2.3	+0.3	+0.6	+0.8	▲0.2	+3.8
17/09	+1.9	(+5.2)	+1.2	+3.7	+4.5	+0.5	+0.2	+1.3	+0.2	+5.8
17/10	+0.6	(+5.3)	+0.3	+1.0	+1.4	+1.8	+1.0	+0.4	+0.9	+0.3
17/11	+0.8	(+6.1)	+1.2	▲0.4	▲0.9	+0.7	+1.5	+1.5	+0.8	+3.4
17/12	+0.0	(+5.3)	+0.0	▲0.1	▲0.1	▲1.1	▲1.5	+0.1	▲1.3	+0.7
18/01	▲0.1	(+3.9)	+0.1	▲0.9	▲0.9	+0.1	+1.3	+0.1	+1.0	+1.6
18/02	+0.1	(+4.5)	+0.4	▲0.5	▲1.1	+0.2	▲0.9	+0.3	+0.5	+0.2
18/03	+0.7	(+5.1)	+0.4	+1.1	+1.9	+0.7	+0.5	+0.4	+0.1	+0.0
18/04	+0.4	(+4.8)	+0.4	+0.2	+0.2	+2.7	+0.6	+0.6	+1.2	+1.0
18/05	+0.8	(+5.9)	+0.9	+0.7	+0.5	▲2.4	+0.2	+0.8	+1.3	+2.0

(注) 数字は季調済前月比。但し、()内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

5月の小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.8%と加速

18年5月の小売・飲食サービス売上高(速報値、季節調整値)は、前月比+0.8%(前月同+0.4%)と加速し、市場予想中央値の同+0.4%を大幅に上回った。強い購入意欲や価格上昇等によって、高い伸びとなったうえ、幅広い業種で売上が増加した。家計を取り巻く環境をみると、雇用・所得の拡大、資産の増加のほか、良好なマインド、低い実質金利などが続いており、消費を支えている。

業態別では、家具が減少に転じたほか、スポーツ用品・本・趣味用品が減少幅を拡大した。また、家電、食品・飲料、通信販売が鈍化した。一方、建設資材、百貨店など一般小売、その他小売、飲食店が増加に転じたうえ、需要の強い自動車・同部品や、価格上昇もありガソリンスタンド、衣料品が加速した。さらに、薬局が高い伸びを維持した。

金融市場の反応では、市場予想を大幅に上回ったこともあり、為替市場ではドルが対円など主要通貨に対して強含んだ。一方、株式市場の反応は限定的なものとなった。債券市場では、小幅金利を押し上げたが、長期債は世界的な金利低下圧力もあり、一時的な動きとなった。

5月の小売・飲食サービス売上高では、ガソリンスタンド、建設資材、百貨店を含む一般小売、飲食店、自動車・同部品が押し上げ

5月の小売売上高の前月比(+0.83%)の寄与度をみると、マイナス寄与の業態は、家具が▲0.05%、スポーツ用品・本・趣味用品が▲0.02%となった。一方、プラス寄与の業態では、ガソリンスタンドが+0.17%と大幅な押し上げ寄与となった。次いで、建設資材が+0.15%、百貨店を含む一般小売が+0.15%、飲食店が+0.15%、自動車・同部品が+0.11%、衣料品が+0.06%、その他小売りが+0.06%、薬局が+0.03%、通信販売が+0.01%と続いた。なお、食品・飲料、家電は0.00%。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

5月の自動車を除く小売売上高は前月比+0.9%に加速

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.9%（前月同+0.4%）と加速し、市場予想中央値の同+0.5%を大幅に上回った。家具が減少に転じたほか、スポーツ用品・本・趣味用品が減少幅を拡大、家電、食品・飲料、通信販売は鈍化した。一方、建設資材、百貨店など一般小売、その他小売、飲食店が増加に転じたうえ、ガソリンスタンド、衣料品が加速した。また、薬局が高い伸びを維持した。

5月のコア小売売上高は前月比で+0.6%と加速し、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率では+5.4%に上昇

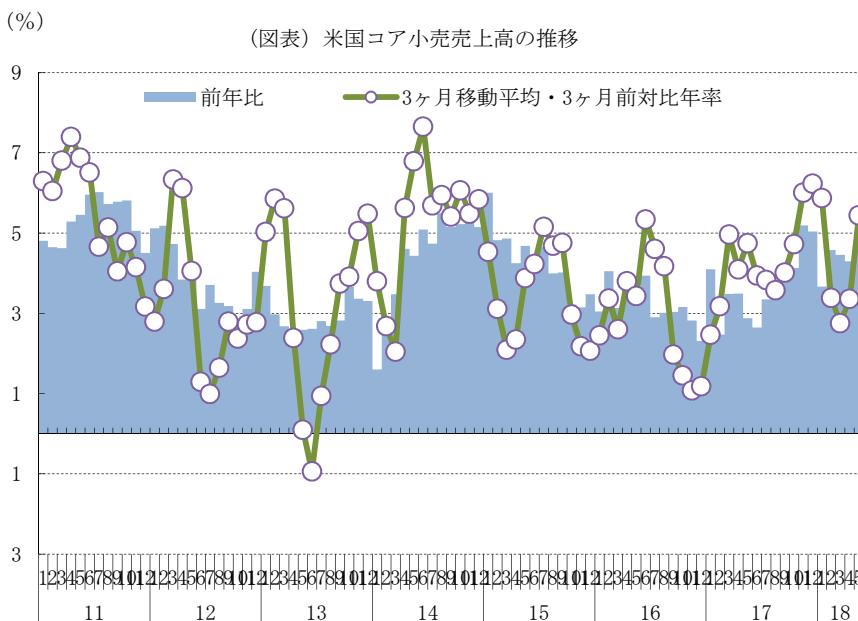
小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.6%（前月同+0.4%）と加速した。家具が減少に転じたほか、スポーツ用品・本・趣味用品が減少幅を拡大した。また、家電、食品・飲料、通信販売が鈍化した。一方、百貨店など一般小売、その他小売、飲食店が増加に転じたうえ、衣料品が加速、薬局が高い伸びを維持した。

小売の基調を示すコア小売売上高は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率で+5.4%（前月+3.4%）と高い伸びとなった。コア小売売上高の拡大モメンタムは、復旧・復興需要などによって押し上げられた反動や税還付の遅れ等の影響が剥落したことによって、再び強まっている。全米での雇用・所得の増加傾向、株や不動産等の資産残高の増加、消費者マインドの安定など、消費を取り巻く環境は良好な状態を維持しており、拡大モメンタムは一段と強まると予想される。

4、5月期のコア小売は年率+5.2%と1-3月期の前期比年率+2.8%から加速

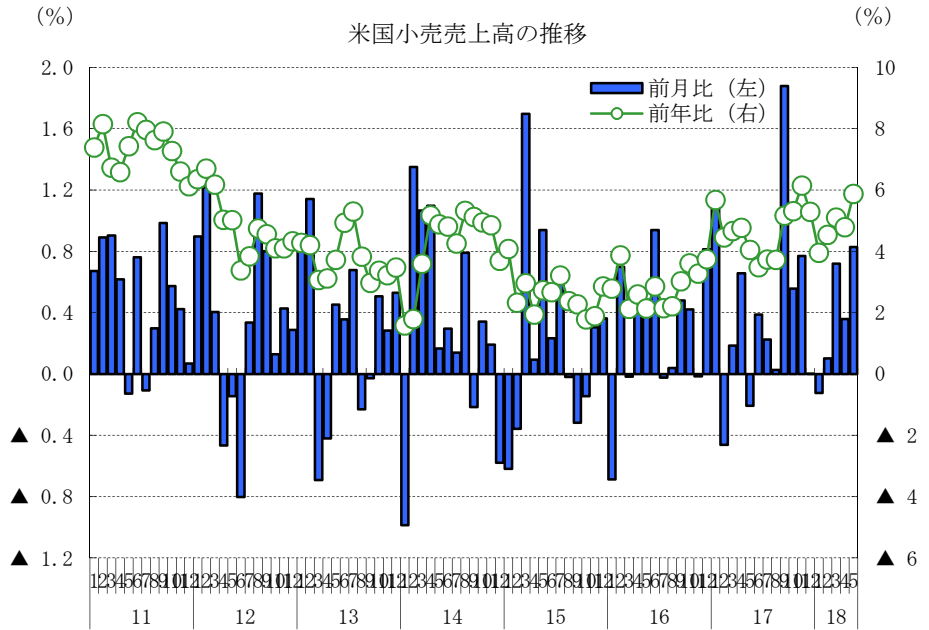
四半期でみると、4、5月のコア小売売上高（平均）は1-3月期比年率+5.2%と、1-3月期の前期比年率+2.8%（速報同+1.6%から上方改定）から加速している。10-12月期に復興・復旧需要によって前期比年率+6.2%と高い伸びになった反動で1-3月期に大幅鈍化したのが、4-6月期には再加速していることが示された。

6月のコア小売は、減税効果、良好な雇用環境等を背景に、高い伸びを維持すると見込まれる。結果、4-6月期の実質個人消費は前期比年率+3%程度（1-3月期同+1.0%）に加速すると予想される。

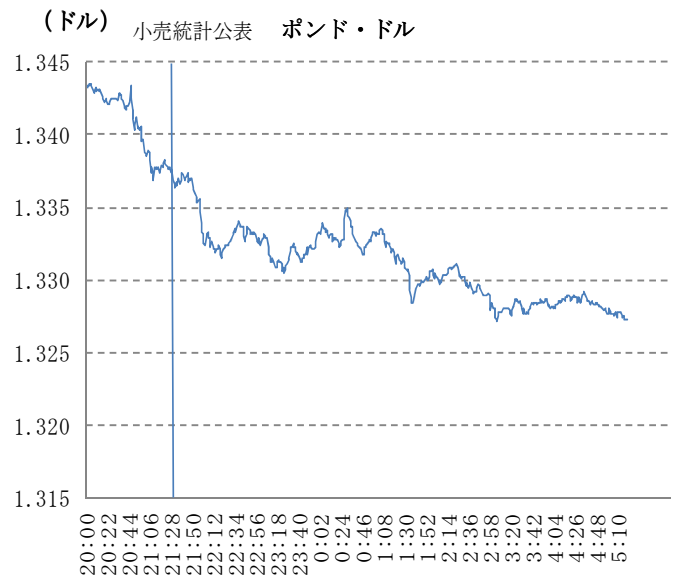
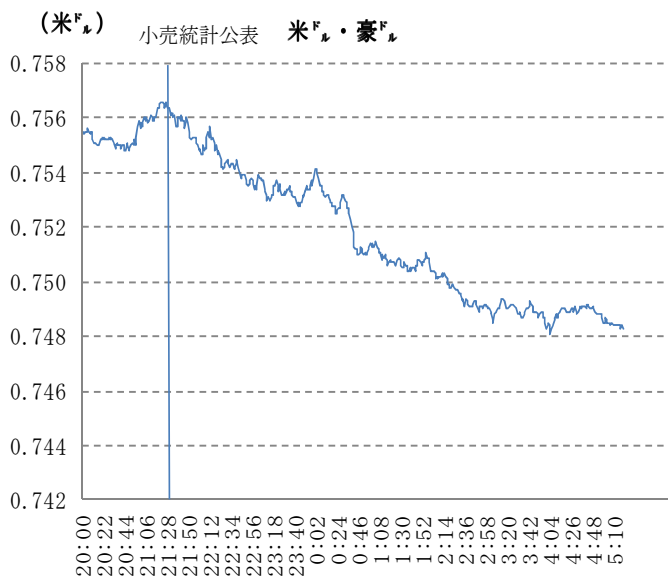
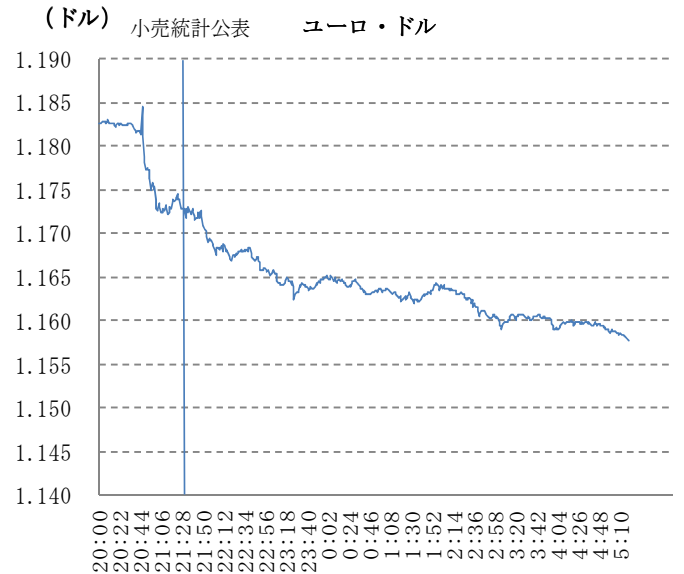
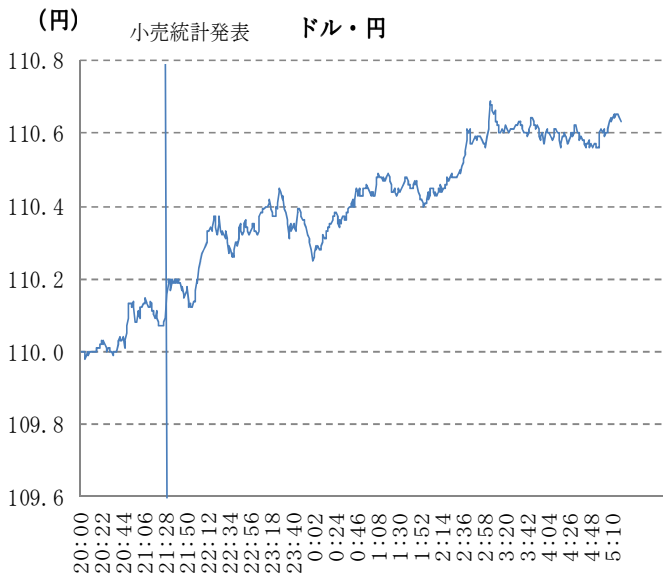


(出所) 米商務省

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

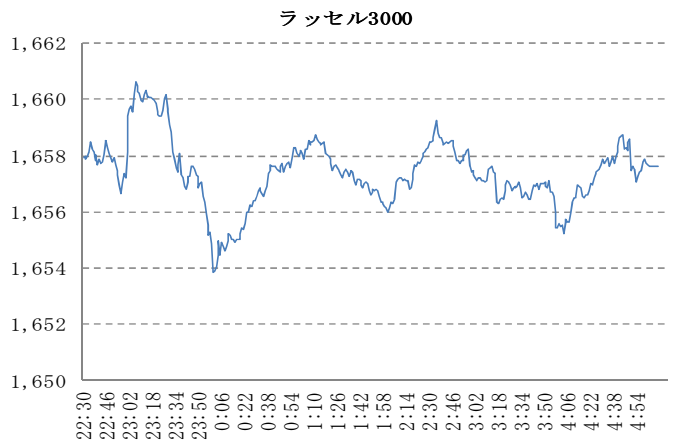
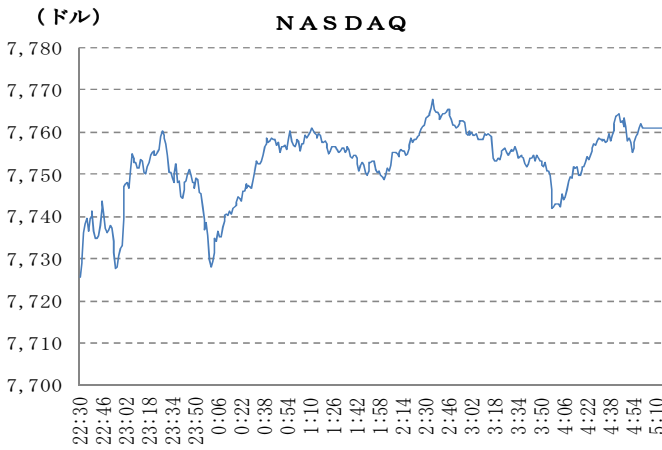
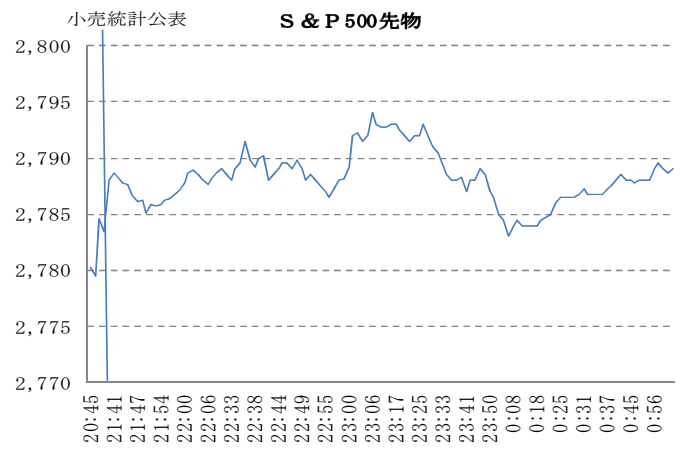


【為替】

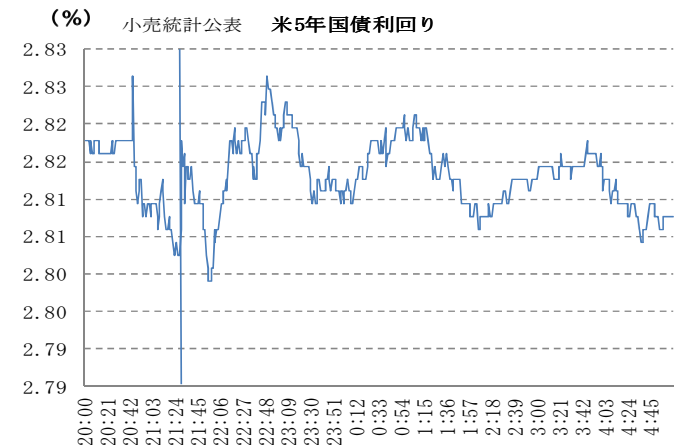
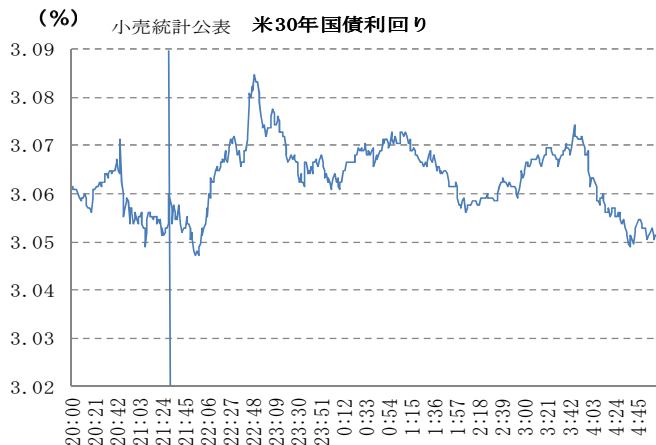
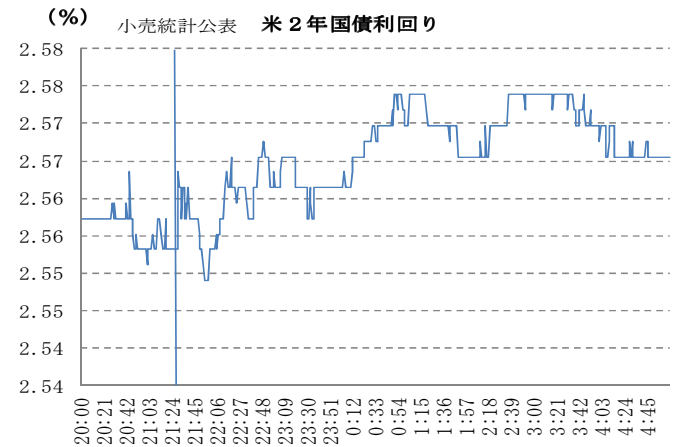
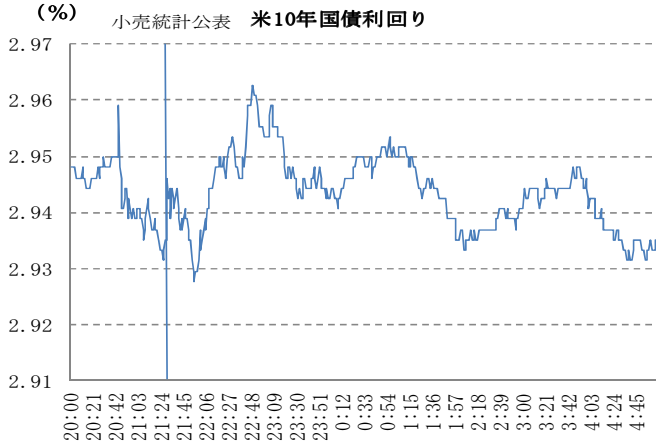


本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるととは限りません。

【株式】



【金利】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。